

## 2.2 共通のテーマに基づく各団体の取り組み

上記の「共同の取り組み」に加え、本自主行動計画では「①各種情報提供や普及活動の推進」「②調査研究活動」を主体間の連携に資する共通テーマとして掲げ、各団体にて取り組むことを促しています。2006年度においては、消費者・自治体との意見交換会、児童・生徒を対象とした環境学習への支援、リターナブルシステムの研究や自治体分別実態の実態調査など、多様な取り組みが各団体に展開されました。主な取り組み内容は以下の参考2をご参照ください。

### (参考2) 各団体の情報提供・普及活動／調査・研究活動の例

#### 情報提供・普及活動

##### ● ガラスびん 3R 早分かりムービーの作成

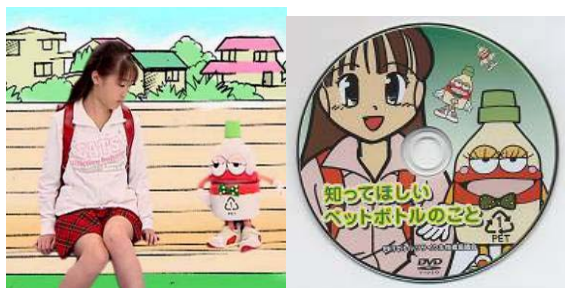
◇ガラスびんリサイクル促進協議会では、ガラスびんの3R早分かりムービー(DVD)「ガラスびん3R作戦 ペンギン南極へ帰る」を作成し、配布しました。ホームページでも公開中です。



ガラスびん3R早分かりムービー

##### ● 啓発DVDの作成・配布

◇PETボトルリサイクル推進協議会では、啓発DVD「知ってほしいペットボトルのこと」を作成し、配布しました。この動画は、推進協議会のホームページでも配信しています。



DVD「知ってほしいペットボトルのこと」

##### ● 自治体との意見交換会を実施

◇プラスチック容器包装リサイクル推進協議会では、自治体との意見交換会を実施しました。



自治体との意見交換会

##### ● 小学生向け小冊子を作成

◇スチール缶リサイクル協会では、小学生向けリサイクル推進啓発用小冊子「リサイクルといえばスチール缶」を15万部作成、全国の小学校約2万3千校へ配布し環境学習に活用していただきました。また年間約10万人の製鉄所見学者等へも配布し、3R推進の普及啓発を実施しました。



冊子「リサイクルといえばスチール缶」

##### ● アルミ缶回収の優秀校及び協力者の表彰

◇アルミ缶リサイクル協会では2006年度、アルミ缶回収の優秀校として53校、協力者として65の個人・団体、優秀拠点として2社を表彰しました。この内5件は、2007年10月に3R推進協議会か

ら3R推進功労者として、同協議会の会長賞を受賞しました。



3R推進協議会の会長賞受賞風景

● **地域会議、リサイクル講習会、出前授業**

◇飲料用紙容器リサイクル協議会では、地域住民・自治体・学校関係者・回収業者による意見交換の場としてリサイクル促進地域会議を3回、リサイクル講習会を6ヵ所7回、小学校の総合学習を活用した出前授業を1回実施しました。



リサイクル講習会（上）・地域会議（下）

● **各種イベントにおける広報活動等**

◇段ボールリサイクル協議会では、以下のような広報活動を展開しました。

- ・日本製紙連合会主催「環境講演会」（2006.5）
- ・（財）古紙再生促進センター主催「ペーパーリサイクルフェア」（2006年9月、10月）
- ・古紙再生促進センター主催「紙リサイクルセミナー」（2006.10）
- ・その他広報紙等への活動紹介など：  
（日本製紙連合会発刊「古紙パンフレット」、（財）古紙再生促進センター発刊「紙リサイクルハンドブック」など）



ペーパーリサイクルフェア

**調査・研究**

● **リターナブルびん利用促進モデル事業**

◇ガラスびんリサイクル促進協議会では、茅ヶ崎市の酒販組合と連携しリターナブルびん利用促進・宅配システム構築のモデル事業、モデル市町村のリターナブルびん分別収集効果・効率性検証事業を行いました（環境省、経済産業省委託事業）。



茅ヶ崎市におけるリユースモデル事業

● **欧州技術調査を実施**

◇PET ボトルリサイクル推進協議会では、2007年3月欧州技術調査団を欧州5カ国（ベルギー、フランス、スイス、イギリス）に派遣し、「リターナブルPET ボトルの実態」、「先進事例としてのスイスの高度なりサイクル状況」、「自動回収機やリサイクル技術」などの調査を実施しました。



ベルギーの研究所（ILSI）との意見交換

● **組成分析などの現場調査を実施**

◇紙製容器包装リサイクル推進協会では、自治体の分別回収の実状について9市のヒアリング調査と、3市の組成分析調査を実施しました。



紙製容器包装の組成分析調査写真

◇プラスチック製容器包装リサイクル推進協会では自治体の分別収集したプラスチック製容器包装の組成分析調査を行っています。



プラスチック製容器包装の組成分析調査写真

● **集団回収の現状調査・普及拡大**

◇スチール缶リサイクル協会では、平成17年より、全国22箇所(北海道～四国)について、集団回収の現状を継続調査しました。その調査結果を踏まえ、協力していただいた自治体関係者と研究会を開催、また、情報公開のためのフォーラムを開催しました。なお、調査資料は、情報提供のため全国の区市へ配布しました。さらに、調査結果より集団回収が3R推進普及啓発に効果があることが判明したため、主体間連携に資する取り組みとして具体的支援方法についての検討を行いました。(平成19年度より、経済産業省・クリーンジャパンセンター等の後援を得て「集団回収を通じて優れた環境学習に取り組む小学校に対する支援(予算総額1千万円)」を開始しています。)

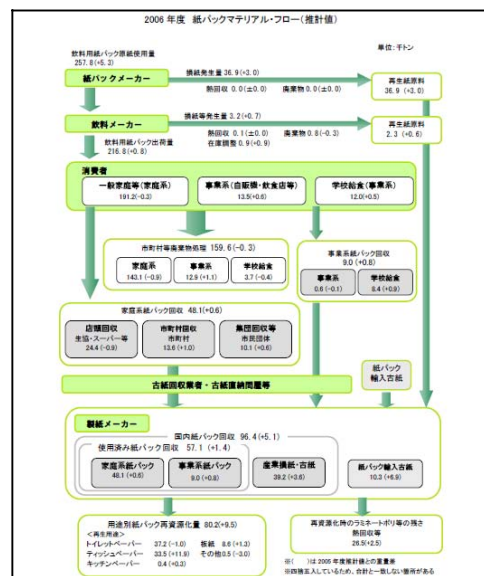


集団回収現状調査風景

● **リサイクルフローなどに関する調査**

◇アルミ缶リサイクル協会では、リサイクル率に影響するアルミ缶スクラップの海外輸出について、2006年度より調査を開始しました。

◇飲料用紙容器リサイクル協会では、1995年より独自の調査による飲料用紙容器リサイクルの現状と動向に関する基本調査を継続し、毎年紙パックの回収率を始め、原紙輸入からリサイクルまでのマテリアルフローの作成、回収業者、再生紙メーカーでの買取り価格調査など、その結果を公表しております。



紙パックマテリアルフロー調査

● **3R 事例収集やリサイクルマークの調査**

◇段ボールリサイクル協会では、段ボールの3Rに係る事例(面積縮小・軽量化段ボール、畳み易い段ボール)の収集や、家庭から排出される段ボールの家庭への搬入経路別、用途区分別リサイクルマーク表示率の調査(2006年7月～8月)を実施しました。

### 3. 今後の取組み

---

#### 各団体による 3R 自主行動計画の着実な実施

本フォローアップは自主行動計画の初年度に当たりますが、2010 年度の目標年次に向け着実な一歩が踏み出せたものと考えています。今後ともリデュース・リユース・リサイクルのためのさらなる取組みを各団体で進めていく所存です。

#### 主体間の連携に資する共同の取組みをさらに充実すると共に、新たに AC による普及啓発を開始。

主体間の連携に資する取組みについても、2006 年度に引き続きフォーラム・セミナー等を展開すると共に、さらなる普及啓発、連携強化に向けた取組みを進めていきます。さらに本年 11 月、AC（公共広告機構）の支援団体にも選定されており、来年以降各種媒体による普及啓発を展開する予定となっています。

今後とも消費者・自治体・国等の関係者の皆様のご指導、ご協力を賜りますようお願いする次第です。

## 団体別フォローアップ報告

ガラスびんリサイクル促進協議会 .....	14
PET ボトルリサイクル推進協議会.....	18
紙製容器包装リサイクル推進協議会.....	22
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 .....	26
スチール缶リサイクル協会 .....	30
アルミ缶リサイクル協会.....	34
飲料用紙容器リサイクル協議会.....	38
段ボールリサイクル協議会 .....	42

## ガラスびんリサイクル促進協議会の概要

### ■ 設立年月日

平成8年11月19日

(前身のガラスびんリサイクリング推進連合は昭和59年11月設立)

### ■ 設立の目的

本会は、ガラスびんの3R（リデュース、リユース、リサイクル）を一層効率的に推進するために必要な事業を広範に行うことにより、資源循環型社会の構築に寄与することを目的とする。併せて、財団法人日本容器包装リサイクル協会と連携して効果的な事業を行う。

### ■ 名 称

ガラスびんリサイクル促進協議会

Glass Bottle Recycling Promoter Association

### ■ 事 務 所

〒105-0004 東京都港区新橋2-12-15 田中田村町ビル8階

TEL：03-3507-7191 FAX：03-3507-7193

Home Page：http://www.glass-recycle-as.gr.jp

### ■ 事業内容

- (1) ガラスびんの3R（リデュース、リユース、リサイクル）についての普及・啓発
- (2) ガラスびんの軽量化に関する調査・研究
- (3) リターナブルびんの普及拡大のための調査・研究
- (4) カレット利用率の向上及びカレットの品質向上のための調査・研究
- (5) カレットの他用途利用に関する調査・研究
- (6) 行政機関・関連業界等へのガラスびんリサイクル促進のための要請及び建議
- (7) その他本会の目的を達成するために必要な事業

### ■ 会 員

#### [正 会 員]

- (1) ガラスびんの製造事業を行う者若しくはそれらの団体
- (2) ガラスびんを容器とする飲料、食品、医薬品等の製造又は販売事業を行う者若しくはそれらの団体
- (3) カレット又はガラスびんの回収、処理事業を行う者若しくはそれらの団体
- (4) 回収されたガラスびんを利用してガラスびん以外の製品を製造する者若しくはそれらの団体

#### [賛 助 会 員]

- (1) ガラスびんに関連する事業を行う者
- (2) ガラスびんを容器とする飲料、食品、医薬品等の輸入、販売を行う者
- (3) 回収されたガラスびんを利用してガラスびん以外の製品を製造する者
- (4) 本会の目的に賛同する法人若しくは団体

### ■ 会 員 数

平成19年7月現在

会 員 構 成	会 員 数
正 会 員	
ガラスびんメーカー	15
ボトラー	45
びん商・カレット商	18
計	78
賛 助 会 員	48
合 計	126

### ■ 会長・副会長

会 長 山 中 昭 廣 石塚硝子株式会社 代表取締役社長  
副会長 岩 本 重 己 第一硝子株式会社 代表取締役社長  
事務局長 森 雅 博

ガラスびんに関する自主行動計画の2006年度フォローアップ結果

ガラスびんリサイクル促進協議会

【リデュース】

2010年度目標	2006年度取り組み実績
2004年対比で2010年に1本あたりの重量を1.5%軽量化する。	2006年に軽量化された品目は、5品種24品目であり、軽量化重量は2,974トン、総重量に占める割合は0.2%であった。また、1本当りの重量は、187.7gで基準年の2004年に比べると4.6g(2.4%)減少した。

【リユース】

2010年度目標	2006年度取り組み実績
リターナブルシステムの調査研究を行う。	環境省「リターナブルびん利用促進モデル事業」、環境省「モデル市町村のリターナブルびん分別収集効果・効率性検証事業」及び経済産業省「地域省エネ型リユース促進事業ーリターナブルびん宅配システムの構築」の委託事業を行い、リターナブルびんのPR、効率的な回収方法の調査を行った。

【リサイクル】

2010年度目標	2006年度取り組み実績
<p><b>〔カレット利用率〕</b> エコロジーボトル（その他色カレット多量利用）の普及を図るなどして、カレット利用率91%を達成する。</p> <p><b>〔リサイクル容易性向上〕</b> ラベル、キャップ等に関して易リサイクル性の向上を図る。</p>	<p>カレット利用率は94.5%となり、前年に比べて3.2ポイント上昇した。</p> <p>エコロジーボトルの出荷量は、107百万本となり前年に比べて3.8%増加した。</p>

【自主設計ガイドライン／広報活動】

2010年度目標	2006年度取り組み実績
3Rを推進するための自主設計ガイドライン（ガラスびんの組成、質量、形状、ラベル、キャップ等に関する事項）を策定し、製造・利用事業者への周知・徹底を図る。	アルミ箔ラベルを使用しない等ガラスびんの3Rを推進するための自主設計ガイドラインを設定し、ボトラー団体等へ説明会を開催して協力を要請した。

## 【リデュース】

### (1) 軽量化実績

- ・2006年に軽量化された主な品目は、5品種24品目（表1）であり、軽量化重量は2,974トン、総重量に占める割合は0.2%であった（表2）。
- ・軽量化効果が最も大きかった品目は、コーヒーで、軽量化トン数は約2,500トン。
- ・その他にも粉末クリーム、つゆ、たれにおいて軽量化の効果が大きい。
- ・軽量化の考え方は、前年と同容量の品目についてのみ対象としており、容量変更による新品目の軽量びんは対象外としている。

表1 2006年に軽量化された品目

品 種	品 目
薬塩	細口（1品目）
食料塩	コーヒー（9品目）、粉末クリーム（1品目）
調味料塩	ケチャップ（1品目）、たれ（2品目）、酢（2品目）、新みりん（1品目） つゆ（4品目）、調味料（1品目）
ビール塩	ビール（中小）（1品目）
ウイスキー塩	ウイスキー（1品目）

表2 軽量化実績（2006年）

軽量化重量合計	生産トン数	軽量化率
2,974	1,343,925	0.22%

### (2) 1本当りの単位質量変化

- ・2006年のガラスびん1本当りの平均質量は187.7gとなり、前年の187.2gに比べて0.5g（0.3%）の増加となった。
- ・増加要因としては、1本当りの単位質量が平均質量よりも重い「清酒 1.8L」「清酒中小」「ビール」等の生産が前年に比べて増加したためである。清酒 1.8Lびんは焼酎需要の増加、ビールびんはリターナブルびんの入れ替え時期による生産の増加によるものである。また、小容量製品が前年に比べて減少していることも一因である。
- ・一方、目標設定の基準年である2004年（192.3g）に比べるとガラスびんの1本当りの平均質量は4.6g減少している。

### (3) 既に軽量化された主な品目

- ・平成12年から平成17年までに、既に軽量化された主な品目は、表3のとおりとなっている。

表3 既に軽量化された品目（2000年～2005年）

品 種	品 目
薬塩	小塩ドリンク（2品目）
調味料塩	酢（3品目）、ドレッシング（3品目）、調味料（3品目）
牛乳塩	牛乳（4品目）
ウイスキー塩	ウイスキー（1品目）

## 【リユース】

### (イ) リユースモデル事業の実施

環境省「リターナブルびん利用促進モデル事業」、環境省「モデル市町村のリターナブルびん分別収集効果・効率性検証事業」及び経済産業省「地域省エネ型リユース促進事業－リターナブルびん宅配システムの構築」の委託事業を行い、リターナブルびんのPR、効率的な回収方法の調査を行った。

#### ①経済産業省「地域省エネ型リユース促進事業－リターナブルびん宅配システムの構築」

（目的） リターナブルびん販売店回収ルートの子世代的なシステムとして、宅配回収の可能性と最適な運営方法を検証する。

（事業内容） インターネットによる茅ヶ崎市民へのリターナブルびんに関する意識調査、リターナブルびんの宅配システム実証実験、タウン誌での紹介、ポスター掲示、チラシポスティングによるPR、通い箱の導入、ポイントカードによる回収促進（環境省のモデル事業と平行実施）

（成果と課題） 消費者の関心を喚起するには、リターナブルびんの識別を明確にすること、リターナブルびんが環境保全に役立つことをPRする必要がある。

宅配を行う酒販店でも、宅配を新たなサービスと位置づけることにより、リターナブル商



品を拡大できる可能性がある。

## ②環境省「リターナブルびん利用促進モデル事業」

(目的) 既存のビール、一升瓶を含むRマーク商品を拡充し、その普及を図ることを目的とした。

(事業推進主体) 茅ヶ崎市の酒販組合、商店会連合会、消費者代表等からなる「茅ヶ崎リターナブルびんモデル事業推進協議会」を設置した。

(事業内容) ポスター、チラシ、ポイントカード、オリジナルバッグ等のキャンペーンツールを活用して店頭キャンペーン、回収実験を行った。

(成果と課題) キャンペーンにより消費者の関心を喚起でき、リターナブルびんに対する認知度を向上させることができた。一方、空きびんの回収率が低水準にとどまったこと、キャンペーン期間が短く施策の浸透が不十分であった。

## ③環境省「モデル市町村のリターナブルびん分別収集効果・効率性検証事業」

(目的) リターナブルびんを分別収集する実施事例を調査し、課題とリユース促進効果を検討する。広報の実施による回収率向上への効果を推定する。

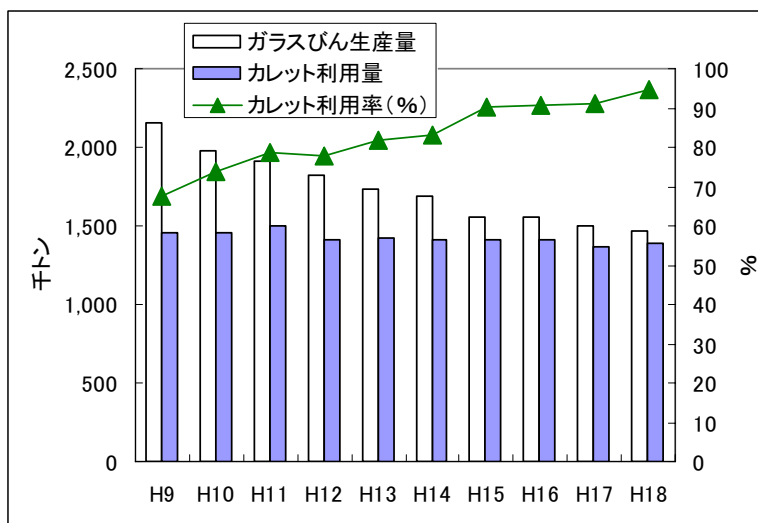
(事業内容) リターナブルびんの分別収集により効果を上げている神奈川県大和市、目黒区、那覇市、京都市の事例調査の実施。市民への広報によるリターナブルびん回収改善の検証

(成果と課題) 4都市のリターナブルびん分別収集の実態を把握することができ、他都市の参考事例となる。リターナブルびんの分別収集の目的・対象を市民に一層周知させることが必要である。

- 2007年度は、総合スーパーの協力を得て、効果的なリターナブルびんの認知促進と販売促進のための売り場作りに関し様々な工夫を行うことによって、消費者のリターナブルびんの購買意識の変化を促すとともに、これによりリターナブルびんの販売量がどのように増加するかについて検証する事業を行っている。

## 【リサイクル】

2006年のガラスびん生産量(経済産業省「窯業・建材統計」)は147万2千トンで対前年比1.9%の減少となった。カレット利用量は139万1千トンで、カレット利用率は94.5%となった。(前年に比べて3.2ポイント上昇)



## 【自主設計ガイドライン／広報活動】

### (1) 3Rのための自主設計ガイドラインの設定

自主設計ガイドライン(案)を策定した後、主要14ボトラー団体へアンケートを実施し、アンケートの回答を踏まえて修正を行い、本年3月に自主設計ガイドラインを最終決定した。その後、関係する各ボトラー団体へ順次説明し協力要請を行った。また、ホームページでこれを公表した。

### (2) 広報活動

ガラスびんの3Rへの取組みについて、積極的にPRを行った。ホームページにおいては内容の充実、パンフレット、ポスター等の制作・配布、展示会への出展、会員向けの情報誌の発行等を行った。

また、3R早分かりムービー「ガラスびん3R作戦 ペンギン南極へ帰る」を新規に制作し、ホームページに掲載した。更にDVDを作成し、小中学校、市町村リサイクルプラザ等での環境学習用として配布することとしている。

# PET ボトルリサイクル推進協議会の概要

## ●事業目的

1. PET ボトルのリサイクルに関する啓発
2. PET ボトルのリサイクルに関する研究及び調査
3. PET ボトルのリサイクルに関する指導及び建議
4. PET ボトルのリサイクル推進に係わる関係団体等との連携及び協力
5. 会員相互の情報交換
6. その他推進協議会の目的を達成するために必要な事業

## ●設立：1993（平成5）年6月22日

## ●正会員団体：

社団法人 全国清涼飲料工業会	(会員企業等数 198)
PET ボトル協議会	(会員企業等数 32)
社団法人 日本果汁協会	(会員企業等数 134)
日本醤油協会	(会員企業等数 1509)
酒類 PET ボトルリサイクル連絡会	(会員企業等数 12)

## ●主な役員

会長	： 服部 政夫（株式会社吉野工業所 製造・環境部門執行役員）
副会長	： 大平 惇（社団法人全国清涼飲料工業会 専務理事）
	： 大股 健（三井化学株式会社 PTA・PET 事業部 部長）
	： 高松 洋（キッコーマン株式会社 取締役常務執行役員）
専務理事	： 松野 建治

## ●事業所所在地：東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル2階

TEL：03-3662-7591

FAX：03-5623-2885

## ●主な活動内容：

### 3R 推進活動

- (1) 正しい知識及び情報の提供活動  
展示会出展、広報誌の発行・配布、工場の紹介、ビデオ、再生品の紹介等
- (2) 市町村分別収集への協力  
主要市町村の訪問調査、事例紹介等
- (3) リサイクルシステム効率化  
関連団体との連携及び国内外の先進事例等研究

### ■お問い合わせ先■

PET ボトルリサイクル推進協議会  
新美・松野

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル2階

TEL：03-3662-7591

FAX：03-5623-2885

URL：<http://www.petbottle-rec.gr.jp>

# PETボトルリサイクル推進協議会の自主行動

## <PETボトルに関する自主行動計画の2006年度フォローアップ結果>

### リデュース

2010年度目標	2006年度取り組み実績
新たな技術開発等を行い、主な容器サイズ・用途毎に2004年度実績比で1本あたりの重量を3%軽量化する。	◎2006年度のボトル重量調査を、推進協議会を構成する5団体に行った結果、2004年度に比べ、主な容器サイズ・用途計15種のうち9種で0.2~8.0%の軽量化が達成できた。

### リユース

2010年度目標	2006年度取り組み実績
リターナブルシステムの調査研究を行う。	◎2006年7月にリターナブルPETボトル分科会を立ち上げ、国内外のリターナブルPETボトルの衛生性、安全性に関する文献を分析し、2007年3月に中間報告書を作成した。 ◎2007年3月末に、リサイクル実態の調査研究の一つとして、ドイツを主体とした欧州でのリターナブルボトルの実態を調査すべく、欧州技術調査団を派遣した。

### リサイクル

2010年度目標	2006年度取り組み実績
回収率75%以上を達成する。	◎回収率定義の改訂を行い、新回収率 <b>66.3%</b> (旧回収率72.2%)を達成した。
つぶしやすい容器の開発を目指す。	◎会員団体の各企業に要請して特許、実用新案及び新聞、雑誌への公表記事等に関する調査を行い、6件の開発があった。

### 自主設計ガイドライン/広報活動

2010年度目標	2006年度取り組み実績
自主設計ガイドラインに基づいて、環境配慮設計の容器を継続して開発する。	◎PETボトルの自主設計ガイドライン遵守を目的にガイドライン分科会にて、着色ボトルなどの調査を行い、問題のあった企業にはその遵守を要請し、是正を図った。
広報活動	◎消費者・市町村に対しホームページ、広報誌『RING』(年2回)、年次報告書、再利用品カタログ等による情報提供及び啓発活動を行った。 ◎市町村へのお願いとして、円滑な引き渡しに関する要望書を配布した。

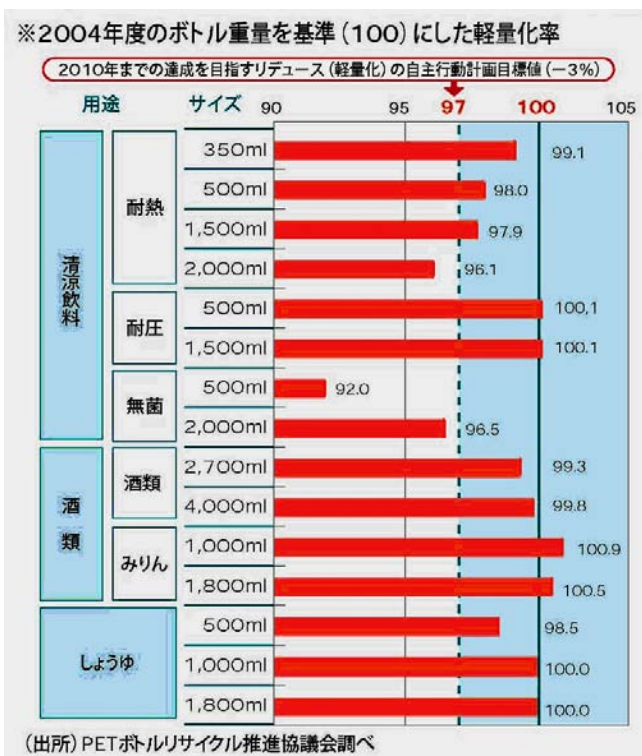
## リデュース(Reduce)

### ● 2004年度実績比3%の軽量化が目標

PETボトルのリデュース(軽量化)目標は「新たな技術開発を行い、2010年度までに、主な容器サイズ・用途ごとに2004年度実績比で1本当たりの重量を3%軽量化する」です。

主な容器サイズ・用途別2006年度軽量化実績を図1に示します。対象とする15種の容器のうち9種の容器で0.2%~8%の軽量化が図られました。一方で、耐圧容器をはじめとする2006年度に軽量化が進まなかった容器についても、今後さらに容器製造事業者・中身製造事業者が協力して、目標達成に向け努力を続けてまいります。

図1. サイズ・用途別 PET ボトル軽量化実績(2006年度)



## リユース(Reuse)

### ● すでに実用化されている欧米で実態調査を実施

PETボトルリサイクル推進協議会(以下推進協議会)では、2006年7月より「リターナブルPETボトル分科会」を設置し、「商品の安全・安心の確保」を中心としてPETボトルのリターナブルシステムの研究を行っています。すでにリターナブルPETボトルが実用・流通している欧米での実態調査を、文献調査・ヒアリング・現地訪問調査等によって行いました。

### ● 現在までの安全性に関する調査

米 ILSI が 1993 年に発行した「REFPET に関する白書」、及び TNO(オランダ食品衛生研究所)が 1994 年に発行した「PET リフィラブルボトルの健康・安全調査」等の文献の中で、パラチオン、エチレングリコール、ガソリン、エンジンオイル、

メタノール等の化学物質は、通常行われるアルカリ洗浄では除去しきれず、PET ボトル内壁に残留するとともに、内容液に再溶出し、この最大溶出量を人間が摂取した場合、WHO の摂取安全基準を超える化学物質が 62 モデル物質のうち 12 品目あるとの報告を確認しています。

報告書の結論では、消費者の誤用により化学物質が残留・再溶出する可能性はあるものの、そのレベルを様々な許容摂取基準と照らし合わせてみた場合、健康に危害が及ぶリスクは非常に小さいとしています。安全であるという結論にはなっておりません。

リターナブルPETボトルにおける安全・安心の確保に向け、今後さらに調査研究を継続してまいります。

## リサイクル(Recycle)

### ● 回収率の定義改訂、旧回収率から新回収率へ

2007年度版年次報告書にて2005および2006年度の使用済みPETボトルの回収率定義の改訂を行い、新旧回収率を公表しました。

今回の定義改訂は、産構審の資源循環指標調査検討ガイドラインに従い、分母を「指定 PET ボトル用樹脂生産量」から「指定 PET ボトル販売量」に、また、分子の一部である「事業系回収量」をボトル製造時の成形ロスを除いた「事業系ボトル回収量」に変更しました。

### ● 2006年度新回収率66.3%を達成

新旧回収率の分母および分子を表1に示します。

結果、2006年度の新回収率は66.3%で、2005年度の61.7%を4.6ポイント上回り、続伸しました。(図2)

表1. 指定PETボトルの新旧回収率比較

(項目)		(単位:千トン)			
		旧回収率		新回収率	
(年度)		2005	2006	2005	2006
分子	市町村分別収集量	252	268	252	268
	事業系回収量	97	120	-	-
	事業系ボトル回収量	-	-	75	92
	全回収量	349	389	327	361
分母	PETボトル販売量	-	-	530	544
	樹脂生産量	533	538	-	-
回収率 %		65.6	72.2	61.7	66.3

(出所) ○市町村分別収集量は環境省資料 ○事業系回収量・事業系ボトル回収量・PETボトル販売量はPETボトルリサイクル推進協議会資料 ○樹脂生産量は指定PETボトル用樹脂の生産量。PETボトル協議会資料  
※千トン未満を四捨五入してあるため、数値が若干上下している。

この日本の回収率66.3%を2006年の欧州36.8%、米国23.5%の回収率と比較してみると、これまで通り世界最高水準をキープしています。

### ● 輸出調査からの輸出推計量は225千トン

推進協議会にて実施している再商品化事業者を対象とする